

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所 新健康協会
発行人
〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十五年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

真理と非真理

昔から真理ということは誰も言うのであるが、非真理即ち偽理という事は言わないようである。ところが、あらゆる実際問題を検討するにあたって、この真理と偽理との区別のある事を知らなければならぬ。それによって結果に重大関係があるからである。それらについても思う事は、偽理を真理と誤っている事がすこぶる多いのであって、ただ一般はこれに気がつかないだけである。偽理と真理は宗教にも、哲学にも、科学にも、芸術、教育にもある。何事についても偽理は数年、数十年、数百年にして崩壊するが、真理は永久不変である。何か新しいものを発見し

た当時、世人は無上の真理と信ずるが、新学説や新発見が出ていつかは崩壊する事もすこぶる多い。それと同じように、大宗教といえども何百何千年の時を経てから消滅しないと、誰か保証し得よう。といっても全然消滅する事もなく、偽理の部面だけが消滅し、それに含まれている真理の部面だけが残される事も勿論で、よし残るものはないとしても、それまで文化の進歩に對し一段階の役割は果たした訳であるから、非難の的とはならない。そうして偽理であっても、真理に近いもの程長期間の生命があり、遠いものほど短命に終わるのも必然の理であろう。本当から言えば、この真理と偽理との正しい判別をする事がその時代の識者や先覚者の責任であるにかかわらず、そういう超凡的識見を有する者は至つて少ないのは事実である。しかしながら、偽理であっても相当長く続く事もあつた。専制政治や封建思想なども、偽理を真理として扱われた事もある。早い話がムツソリーニのファッショ、ヒットラーのナチス、東条の八紘一宇なども誠に短い運命ではあつたが、その

当時はそれに気がつかなかつた事も不思議である。このように、偽理であっても一時はその民族をして真理と思わしめ、生命をまで軽く扱われたのであつて、このような錯覚のため犠牲となり終わった数多くの気の毒な人達が、我等の記憶にまざまざと残っている。全く偽理の恐ろしさが知らるるのである。

偽理と真理については、宗教に多い事も見逃せない事実である。郡小幾多の宗教が出ては滅び、初期は華々しいものであつても、短命に終わり跡形もなくなつたものもあるが、全く偽理宗教であつたからである。

故に真理同様の価値ある宗教である限り、一時は強力なる圧迫を蒙るといへども、いつかは必ず起上り大宗教となる事は、現在ある大宗教をみても頷かるるのであろう。

浄霊体験記 2. ページ 3. ページ

- 両親・兄弟・家族…幸せと感謝の日々…
- 辛い日々が解消眠れることが嬉しい…
- ガンが消えた医者も驚く奇跡…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

救われて五十三年

両親・兄弟・家族
幸せと感謝の日々…

広島支部
林田修子(69)



私が新健康協会を知ったきっかけは、両親の知り合いが「浄霊を受けて元気になった」と言っていて、健康新聞を下さったことです。

当時、母の喉にポリープが出来て、「手術する以外に治す方法はない…」と言われて悩んでいました。そのこともあって、昭和四十七年十二月に両親揃って札幌支部に行き、「浄霊を体験したい」と言っていて、浄霊を受けました。すると、具合が良かったのでしよう、続けて浄霊を受けていました。

その後、初めて支部に行つてから三週間経つた十二月末、両親が二人揃って入会しました。私が十六歳の時でした。

当時、私の家族はよく風邪を引き、病院にかかっていました。その上、父は長年高血圧の薬をはじめ、数種の薬を朝昼晩、几帳面に飲んでいました。しかし、体調はあまり良くないようでした。

そんな時に浄霊を知り、支部と家でよく浄霊を受けるようになりました。時々鼻血が出ることもありましたが、「鼻血によって体の中の毒素が出ている」との話も聞き、徐々に体調が良くなつていったように思います。実際、仕事を休むこともなく、盛り上がりつついた首肩もスッキリとなり、元気になりました。

母はタンがたくさん出るにつれて「喉の奥が楽になつていくのが分かる」と喜び、かすれて出なかつた声がよく出るようになりました。

年子の弟は小学校の検診で軽い鼻炎と診断され、二年間耳鼻科に通つていました。しかし、返つて鼻づまりがひどくなり、蓄膿になっていました。

弟も家で毎日浄霊を受けますと、三カ月間、濃い鼻汁が出るようになります。それによって頭も軽くなったようです。おかげ様で鼻の通りも良くなり、浄霊を受けて良かったと喜んでいました。

体験したことのない爽快感…

私は小さい頃から大病はしていませんでしたが、時々熱を出し、風邪を引いては病院に行くことがありました。

両親から浄霊を受けるようになったあと、初めて風邪を引いた時、鼻汁やタンがスムーズに出て、熱があるのに、ご飯は食べられたので、薬を飲んでいた頃との違いを感じました。更

に、風邪が治つた後、両肩がとても軽くなり、それまでに体験したことのない爽快感を味わいました。

私は支部で「風邪は体内の掃除」ということを聞いていたのですが、この時の体験で、その意味を納得することが出来ました。

その後、家族でいろいろな病気症状が出て、浄霊を受けることによって楽になる体験をしました。

数々の浄化をいただき
益々元気になる…

私は浄霊を知り、今年で五十三年になります。現在まで、かすり傷から歯痛、口内炎、腹痛、湿疹、飛蚊症、腰痛、花粉症のような症状から、精神的なことまでいろいろとありましたが、浄霊を受けるとどれも短期間で楽になり、快復しました。

こうしていろんなことで助けていただき、気持ちもとても楽天的で、感謝の気持ちしかありません。

一人でも多くの方が浄霊を体験され、心身共に元気になれますよう願っております。(広島県広島市)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。まずは試されてみてはいかがでしょうか。

自律神経失調症・しびれ

辛い日々が解消
眠れることが嬉しい…

横浜支部
佐藤修一(60)



私は三十九歳の頃から、眠れない日々が続いていました。それまでは何事もなく健康に過ごしていたのですが、ある時から、毎日少しずつどこか具合が悪くなり、胃がムカムカしたり頭痛がしたりと、すつきりした日がない状態になりました。

気になつて病院に行つて診てもらいましたが、「原因は分からない」と言われたため、更に不安となり、眠れなくなつてしまいました。

こんな日々が続く中、早く治したい一心で内科・外科・精神科・脳外科に行きました。結局は「自律神経失調症です」との診断をされました。

あまりにも辛い日々が続きますので、薬を二、三日服用していましたが、何の変化もなかったのを止めてしまいました。他に何か方法はないだろうか…と思つていた時、母の知り合いで新健康協会の会員である日野ひろ子さんが、私に浄霊を教えてくださいました。私はそれで今の状態が楽になるのであれば…と思ひ、自宅の静岡県から神奈川

県の横浜支部まで浄霊を受けに行きました。支部で二、三回浄霊を受けますと、体調が少しずつ楽になり、眠れるようにもなりました。本当に嬉しかったです。その後も続けて浄霊を受けますと、どんどん楽になつていき、仕事も休むことなく出勤出来ました。

私は、自分でも浄霊が出来るようになりたいと思ひ、平成十七年一月二十八日、四十歳で入会しました。それからもういろんなことが浄霊で楽になりました。

平成三十年、私が五十二歳の時、首が痛み始め、寝返りをするたびに痛みが強くなる状態が続きました。その後から、左手を動かすと、首、左腕に痛みが生じ、親指、人差し指がしびれるようになり、職場の方も心配していただきましたので、近くの整形外科に行きました。そこでレントゲンを撮つたところ、「神経は頸椎の両側の穴を通つて出てきているのですが、右側に比べて左側の穴は小さく細長くなつていて変形していたため、神経を圧迫しているのではないのでしょうか？」と言われました。

その後、自分でもしつかり浄霊をしました。すると、頸椎の痛みもすっかり楽になり、指のしびれもほとんど楽になりました。この時も仕事を休むことなく通勤出来たので、本当に感謝しています。

私の自宅は静岡県のため、支部のある横浜までは距離があるのですが、自分で浄霊が出来ることもあり、いつも明主様からおかげを頂けると感じています。

これからも多くの方に、この素晴らしい浄霊をお伝えしていきたいです。(静岡県御殿場市)

ネパール

肝臓ガン

ガンが消えた 医者も驚く奇跡…

チミ出張所

カビタ・カドカ(41)



二〇二三年の二月、私が三十八歳の時のことです。私は急に全身が震える病気になるました。あまりにも酷かったもので、様々な病院や祈祷師のところへも行き、治療を試しましたが、治りませんでした。この状態が三カ月程続きました。こんなに辛くなっている時に、今度は水を飲んでも吐いてしまう状態になりました。私の体はますます弱くなりましたので、二〇二三年五月頃、夫がバクタプール(チミから東へ約五キロ)にある大きな病院へ連れて行ってくれました。

様々な検査をすると、「肝臓に黒い斑点がある…あなたは肝臓ガンです…」と言われました。私はショックでした。私の足元には地面がないような感じを覚えました。家族みんなも暗い顔をしていました。私には十六歳の娘と十五歳の息子がいるのですが、私は

もう生きていられないかもしれない…私のせいで子供たちの勉強に支障を与えるかもしれない…私がいなくなったら子供たちはどうなるの…と不安でいっぱいでした。夫の悲しそうな顔を見る度、私も悲しくなっていました。

治療をするために、二〇二三年五月、私はカトマンズの病院に送られました。ネパールには、「息がある限り希望は存在する」という諺ことわざがあるので、その諺の通り、私を救おうと様々な治療が始まりました。たくさん薬を使い、化学療法も行いました。薬と化学療法の治療は、とてもつらく、何も食べたくない…という気持ちが強かったです。吐き気があり、眩暈で歩くことも出来なくなりました。体重も減っていき、このまま薬を飲んでも生きられないなら薬は飲みたくない…と思います。治療を諦め、ただ死を待つようになっていました。

死を待つ状態から一転…

その頃、夫は私を休ませようと思いい、私の実家があるドラカ(カトマンズから東へ約百五十キロ)に連れて行ってくれました。私は死を待つような状態でしたので、親戚や近所の人たちが心配して会いに来てくれました。私は悲しみの中、会いに来てくれた皆さんに心から「有難う」と伝えました。すると、二〇二三年七月末頃、カトマンズに住む親戚のカマラ・カルキさんが、「私の旦那が新健康協会の会員で浄霊で元気になったよ。あなたも浄霊を受けてみたら…」と浄霊のことを教えてくれました。私は全ての治療を止めていましたので、助かる望みがあるのであれば試してみたい…と思います。カマラさんと一緒にカトマンズへ戻り

ました。そして、二〇二三年八月五日、一人で歩けない私をカマラさんがカトマンズ支部まで連れて行ってくれました。

カトマンズ支部で三日間浄霊を受けました。すぐに変化はありませんでしたが、続けて浄霊を受けたいと思いましたが、私の家はカトマンズ近郊のチミ(カトマンズから東へ約十二キロ)という場所にありましたが、その近くに出張所があり、そこでも同じように浄霊を受けられると聞いたので、出張所に通うようにしました。

出張所では、一日に二〜三回浄霊を受けました。すると、一週間で少し体が軽くなったように感じました。そして、出張所で三カ月間、毎日浄霊を受けますと、食事が美味しくなり、食べることが出来るようになりました。時々辛い時もありましたが、良くなってきているのを感じていましたので、浄霊を続けました。

以前に化学療法をしていたため、髪の毛も全て抜けていましたが、この期間中に髪の毛も生えてきました。おかげ様で精神力も増えていきました。

涙して喜んだ…

半年後の二〇二四年二月、病院で超音波検査をしますと、お医者さんから「二〇〇%の内、二十五%が回復し、七十五%は未だ改善中の状態…」と言われました。私はそれを聞いてとても嬉しくて、生きる希望を感じました。

その後も毎日浄霊を受けていましたので体重も増えていきました。そして三カ月後の五月、再び病院で超音波検査をしたところ、お医者さんから「良くなっていく」と言われました。私はとても嬉しくなり、「このよう

な奇跡を頂いて有難うございます…」と、明主様に感謝申し上げます。

明主様のおかげで体調も良くなったので、他の方々に浄霊の素晴らしさをお伝えしたいという思いから、二〇二四年五月二十四日、三十九歳で新健康協会の会員となりました。

新しい命を頂いた…

そうして浄霊を受け始めてから一年後の二〇二四年八月、四回目の超音波検査を受けに行きますと、お医者さんから「肝臓の黒い斑点もなく、肝臓ガンは完全に治っている」との報告を受けました。私はその報告を聞き、涙が溢れました。ただ死を待つ状態だった私が、まさかガンが治るなんて…思ってもみなかった奇跡にただただ感謝するばかりでした。私が健康になったことを聞いた家族もみんな涙して喜びました。

お医者さんも信じられないほど驚き、「これは本当に奇跡です」と言っていて、「何の治療をしたのですか…」と聞かれましたので、浄霊のことを伝えました。

私は、明主様のおかげで、新たな命を頂きました。今も浄霊を受けて健康になっております。おかげ様で、私だけでなく子供や家族も元気に過ごすことが出来ています。

私は健康になり、以前のように元気に生活が出来、幸せな家庭を作ることが出来ています。

何かで悩んでいる人も、元気な人も、一人でも多くの方に、是非浄霊を体験して頂き、幸せになってほしいと願っています。

誠に有難うございました。

(ネパール・サイリング)

浄化作用

人間には体内の毒素(=不純物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



自然農法

自然農法体験談



山鹿支部
小池祐生(71)

農業・化学肥料・家畜堆肥などに頼らない農業を父の代から初めて、46年になります。

当時は、自然栽培という言葉が耳なじみのない、それどころか怪しい目で見られていた時代でした。戦後の食糧増産から一転減反政策が進んでいった頃でした。

そのような時から、今では普通に自然栽培とか、有機栽培とか聞かれるようになりました。それでも、有機栽培は全農地面積の約0.6〜0.7程度と非常に低い水準です。品目別では、米や麦は0.1程度にとどまっています。自然栽培となるともっと少ない面積になります。

自然栽培を目指す若者も増えてきましたが、なかなか踏み出せないのが昔からの固定観念です。「農薬を使わないと、周りから害虫が入ってきてしまう」とか、「農薬を使わないと周りの田んぼ、畑に虫が飛んで行って迷惑をかける」などです。

田んぼを自然栽培に切り替えるポイントが先に肥料をやらない事です。病害虫の原因のひとつは肥料です。農薬が人体や環境に悪影響を及ぼすことは普通に考えられることですが、肥料もそうなのです。実際、地下水汚染が進んでいます。硝酸態窒素の人体への害も報告されています。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

ます。肥料をやらなくても大幅に収穫量が減ることはありません。

病害虫が心配な方は、初年度から無農薬にするのではなく、徐々に使用回数を減らしていくことです。初年度は今までと変わらない3回から3回、次年度は2回に減らし、またその翌年は1回に、また翌年は原則農薬の使用をやめてみる事です。

そこで大事なのが観察です。田んぼに足を運ぶ回数を増やし、葉色の変化や、生育のムラなどに気を配る事です。

なかなか田んぼの中に入って見る事はないと思いますが、株元を観察してみると、たくさんの虫がいる事に驚かされます。人間目線ですが、害虫、益虫、なんだかわからないただの虫がいます。農政や農学では害虫が一株当たり何匹いれば、すぐに農薬散布を勧めますが、農薬により、害虫も益虫もただの虫も殺してしまいます。しかし農薬散布しなくても意外なことに、そこには自然界の絶妙なバランスの法則が働いていて、特定の虫が多発する事はありません。でも先ほど触れました多肥料の影響で害虫が発生する事があります。だから肥料を抜くことが先です。

メンタルが強い方は、初年度から無農薬にチャレンジしてもいいと思います。実際当農園も初年度から無肥料・無農薬に切り替えました。ただ、全面積ではなく小面積から始められる事をお勧めします。

自然年数が進むごとに、収穫した農産物の味、香り等、すべての変化に驚かれると思います。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

十二代今泉今右衛門

《染付松重ね皿》

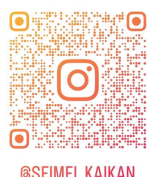
日本の海辺、湖畔の景色には松原が欠かせません。「白砂青松」の言葉に代表されるように、白い砂浜と深緑のコントラストがあつてこそ、水辺は輝くものでしょう。そして、わたしたちが生活するなかでいつも目に入るところにあり、四季の移り変わりに応じて、あるいは天候に応じて風物がさまざまな色を見せても、松は常に緑色をたたえています。そうした常緑の存在は、たとえば春には薄紅色の桜と、冬には降り積もる白い雪との組み合わせで、絵や意匠として描かれてきました。

本作は、十二代今泉今右衛門による三層に重なった松をかたどった染付皿です。白磁の白に染付下絵の青で松葉が細やかに描かれ、裏には唐花文様、高台には櫛目文様が施されています。まったく同型のものが江戸時代の鍋島焼に残っており、いまなお他窯で作られ続けているデザインです。三層の松は「三蓋松(三階松)」という名前で図案化されており、家紋にも使われています。細やかな松葉をみると、私たちに身近な松をそのまま写したようにもみえますが、常緑の存在は、不老長寿の象徴であり、そのルーツは中国の神仙思想にある蓬莱山に結び付けられたものでした。風習としてもさまざまありますが、今でもポピュラーなのは正月に立てる門松でしょうか。新春を寿ぐ神聖なものとしての役割が感じられます。

鍋島藩の藩窯で上絵付けを担っていた今泉今右衛門家は、明治になって十代が自家工房を開き、十一代が復興と発展の道筋をつけて、色鍋島の伝

統技術をつないできました。十二代は両者を支え、襲名後はその技術が無形文化財指定を受けるなど、江戸の終わりとともに途切れそうになった色鍋島を今につながる土台を仕上げた人物と言えます。古陶磁の目利きでもあったという十二代は研究熱心な職人気質とも伝えられています。本作以外にも復刻に取り組んでいることから、堅実な学びの姿勢を偲ぶことができます。日本の日常的な風物と、中国の思想、それを文様として取り入れること、伝統技法を用いて器に表現すること。重層的なつながりを経て、私たちはこの器と向き合うことになるのです。

解説 松田愛子



清明会館(美術館)のInstagramははじめました。

清明会館 「ゆめのうき世に」後期展

期間…令和8年1月6日(火)〜5月17日(日)

※清明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535

健康新聞についてのお問い合わせは (092)661-1531まで